

なきごえ



1984

5

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

“コウノトリと私”



松島 興治郎

コウノトリ飼育場は、国の特別天然記念物であるニホンコウノトリの保護と増殖をめざす施設です。動物園とは違ってコウノトリただ1種だけ、飼育しています。かつてこの地方は、コウノトリの繁殖地として知られ、日本

での最後の生息地だったところ。他の地方ではほとんど見られなくなったコウノトリが、大正から昭和の初めに90羽もいたといわれています。しかしそれが昭和10年代の後半から戦後にかけて急速に減少していったようです。

私の生れ育ったところは豊岡盆地の北の端で、田圃の多くは湿田で、川や溝など水辺が多かったため魚や昆虫など餌が豊富だったのでしょう。子供のころはいつでも、2羽、3羽と溝や水田で餌を探したり、畦道で休んでいるコウノトリが見られました。そのころはまだ自然が比較的に残った土地でしたから、サギなどの野鳥もたくさんいましたが、とりわけ、コウノトリはその姿、形が大きく美しいので、親しみをこめて“ツル”と呼んでいました。今でも古老はそう呼びます。

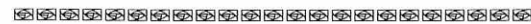
私がコウノトリに特別な関心を持ったのは、高校生の時で、昭和33年に国際コウノトリセンサスがありました。その年たまたま市内の福田地区に営巣したコウノトリがひなをかえしたことで、所属していた生物部が羽数調査や観察を行なうことになり、毎日、放課後になると仲間と2メートルあまりもあ

る旧式の大きな望遠鏡を担いで、福田の山まで通ったものでした。親鳥に育まれて、日に日に大きくなるひなと、親鳥のこまやかな仕ぐさに、わけもなく感動して見入ったものでした。

こんなことがあって、コウノトリの人工飼育がはじめられることになった時、その捕獲を手伝うことになり、昭和39年の暮れからコウノトリの行動調査をはじめたのです。私は捕獲しようとする鳥の生息場所に近かったこともあって、明方の時間を担当し、1番鶏の声を聞くと双眼鏡を肩に愛用のバイクに乗って、仕事前の2～3時間を鳥に気づかれないように付いてまわりました。飛ぶ鳥を何キロも追ったり、草むらに腰を下して何時間も餌を食べるのに付き合ったりし、時には挙動不審者と間違われたりしたこともあり。昭和40年2月に1つがいの捕獲に成功した時、このつがいからやがて幾羽ものひなが育って、何年か先、この野に返すことが出来ると信じ、関係者は一同に喜び合ったことでした。私はその後5月に請われて飼育係になったのですが、飼育の専門家でもない自分がこれ程に重大な仕事を引き受けてしまったのは、以前に福田の山でひなを育てたこのつがいに格別に愛着があったからかもしれません。

それから19年、ひなの誕生を見ることなく、いく羽ものコウノトリの死にかかわってきました。突然とも思える変調が、あっという間に死に至る、野生のもの。その度に飼育するものの観察と判断力が問われ、非力さを思い知らされて、生きるものの生死を、握っている責任の重大さをひとしと感じるので。付き合いえば、付き合い合う程、この鳥のかかる難しい現実を、ひなの誕生で明るいものと思いたっています。

(特別天然記念物コウノトリ飼育場)



なきごえ5月号もくじ

動物と私	2
“春だノ跳びあがれ”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
野鳥の密猟と密売	6・7
オーストラリアの野鳥	8・9
キーパーズ・アイ ㊸	10
動物園ニュース	11



表紙の写真説明

“バーバリーシープ”
アフリカの北部にすむこのバーバリーシープは、ほかの野生ヒツジにはない立てがみ状の毛を、のどから前あしにかけて有しています。岩石が多い荒れた地を好み、群をなして生活しています。(撮影：森本委利)

“春だ、跳びあがれ！”

4月5日、7日、8日にバーバリーシープが6頭誕生しました。メス1頭、オス5頭ですべて順調に成育しています。急斜面の岩山をかけあがっていく姿は元気一杯です。

(撮影：大野 尊信)

動物園グラフ

新しくなったキジ舎

(撮影:中川 哲男)




大小凸凹と起伏に富んだライン延長66.3mの長大なキジ舎



セイランとマクジャクの部屋は間口5.4m、金網はカラーステンレス、防鼠対策に土間の中ほどにはガラス碎片やステンレス金網が。



シェルターとして的小屋、植栽、水飲み場と住環境と景観に配慮が。



国際親善動物

昭和52年11月 中国・上海市と大阪市との第2次動物交換で2番が贈られ、これが日本の動物園で初めてのものです。
昭和54年6月には日本初の繁殖に成功しました。

キジ目 キジ科

ベニジュケイ

分布 南東チベット 西中国 北ベトナム

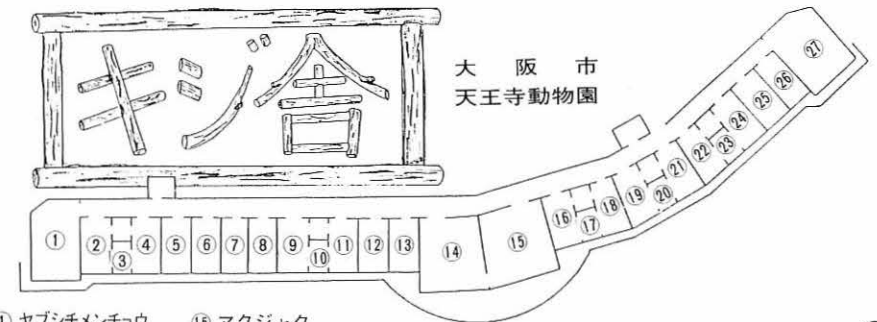
英名 Temminck's Tragopan
学名 *Tragopan temminckii*

ラベルも絵入り、地図入り、カラー化で多彩に。

3・4月の動園日誌

- 3 / 14. 日本庭園池のヘドロ上げが始められました。
- 3 / 15. コウノトリの雄が巢台に上がっているのを確認しました。
- 3 / 16. マントヒヒの子が急性肺炎で死亡しました。
- 3 / 17. 2羽いるハワイガン染色体による性鑑別をしたところ、雄と雌であることが分かりました。
- 3 / 20. コウノトリの雌雄ともに求愛行動とクラッタリング(上下のくちばしでカタカタ鳴らすこと)を行ないました。ふ卵器の試運転を開始しました。

- ボブキャットが1つがい入園しすぐ検疫に入りました。
- 3 / 21. ふ卵器への卵の入卵をはじめました。クマ類の検便を実施しました。
- 3 / 22. ハイロカンガルーの赤ちゃんが、母親の袋の中で順調に生育しています。
- 3 / 23. ボブキャットを小獣舎に展示しました。
- 3 / 24. トラの雄“ルイ”と雌の“ノン”が交尾しました。
- 3 / 25. クロトキを1羽、コウノトリ舎に展示しました。世界の動物園ポスター展を展示館ではじめました。



大阪市
天王寺動物園

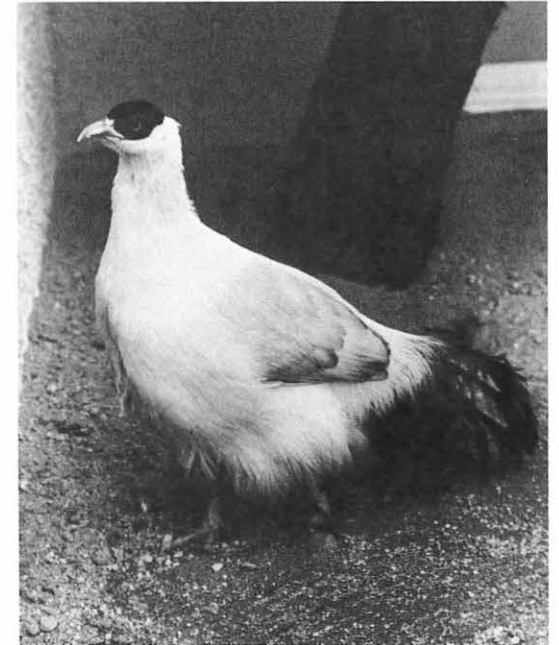
- | | |
|------------|-------------|
| ① ヤブシメンチョウ | ⑮ マクジャク |
| ② ヒオドシジュケイ | ⑯ ハイロコクジャク |
| ③ ウズラ | ⑰ イワシャコ |
| ④ ベニジュケイ | ⑱ インドミノキジ |
| ⑤ ニジキジ | ⑲ エボシキジ |
| ⑥ シロカケイ | ⑳ シマシャコ |
| ⑦ シマハッカ | ㉑ キジ |
| ⑧ ウズミハッカ | ㉒ アカヤマドリ |
| ⑨ ハッカ | ㉓ コジュケイ |
| ⑩ カンムリウズラ | ㉔ ビルマカラヤマドリ |
| ⑪ ミヤマハッカ | ㉕ ミカドキジ |
| ⑫ コサンケイ | ㉖ チャムネシャウケイ |
| ⑬ ウチワキジ | ㉗ ワライカワセミ |
| ⑭ セイラン | |

キジ舎の内容

面積 369.8 m²
工費 3600 万円
室数 32 室 大 4 室
 中 18 室
 小 5 室
 予備 5 室
展示数 27 種 48 点



国際親善動物ベニジュケイ



国際保護動物シロカケイ

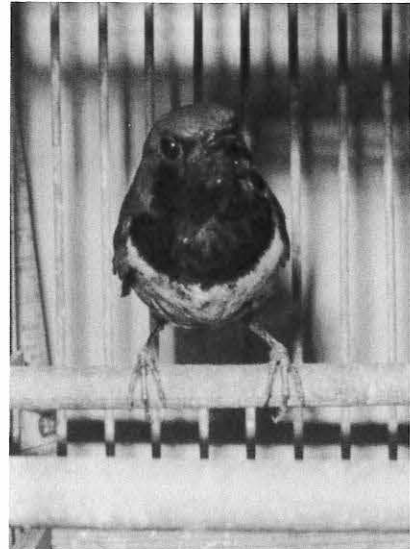
- 3 / 26. 今まで雌のキングペンギンが抱卵していましたが、雄と交替しました。
- 3 / 28. 新キジ舎がオープンしました。
- 3 / 29. カリフォルニアアシカの2頭の子の体重測定を行ないました。
- 3 / 30. 定例飼育研究会が行なわれました。
- 3 / 31. 近畿動物園獣医師勉強会を開きました。シュバシコウの交尾を確認しました。
- 4 / 1. ボランティアーの総会がありました。
- 4 / 2. アカアシコガモを2つがい、水禽放養舎に展示しました。
- 4 / 3. ラマの“ゴロ”と“マリ”が交尾しました。3尖の雄ニホンジカの角が左右落ちました。

- 大阪市・上海市友好交流事業の一環として、第5次動物交換で中国の上海動物園に贈られるラマ1つがいの検疫がはじまりました。
- 4 / 4. サルアパートの寝ワラを取り除きました。
- 4 / 5. バーバリーシープが2頭生まれました。
- 4 / 6. ブラックイグアナが2頭入園し検疫に入りました。
- 4 / 7. バーバリーシープが3頭生まれました。
- 4 / 8. チンパンジーの雌“ヨーコ”が下痢をしているので治療をはじめました。
- 4 / 9. クロサイの母子と父親を運動場にて初めて同居させました。

野鳥の密猟と密売

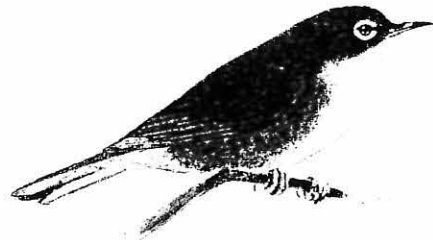
水野五萬男

日本野鳥の会大阪支部は、今冬、朝日新聞にアカヒゲ密売の事実を公表した。残念な事に、この天然



アカヒゲ

記念物、特殊鳥類として保護されているはずの鳥さえ、ひそかに捕獲、売買されていて、だれが、どのように沖縄で密猟し、どういふルートで大阪に持ち込まれるか、遂に明らかにできなかった。市民の立場、保護団体の立場では、努力にも限界がある。行政、捜査当局が余程しっかりしないと、このような違法は今後も続く。川西市のA鳥獣店が、アカヒゲを売買したのは今回が初めてではない。何年前にもアカヒゲ売買で、琉球警察が大阪に出張し、関係者を取調べた事も明瞭となった。その中にA鳥獣店があり、札つきの店であった。



メジロ

この店には、他に多数のメジロも商品として置かれていた。メジロといえども市民が勝手に捕り、売

買、飼育はできない。同一世帯（1人につきではなく）に1羽だけ認めるのが法の趣旨である。ところが、実際はどうか、鞠公園、桜之宮公園、仁徳陵など市街地でも大阪周辺の山々でも泉北、吹田ニュータウンの緑地でも、至る所でメジロ密猟が行われている。こっそりと隠れてやるため、市民に知られてないだけ。シーズン毎に渡りの夏鳥、冬鳥の密猟など箕面山系、大阪湾岸等で行われており、石津川の産業廃棄物処理場の中で銃と弾帯をつけて無許可で公的施設を徘徊する例もある。大阪市天王寺動物園にも、明らかに密猟と思われるクマタカが保護されて持ち込まれた。



クマタカ

大阪府においては最も重要な種である。ところが鷹専門の密猟者が関西にも何人かがおり、これと結びついた小鳥店から飼育家、好事家に渡ってゆく。これら心ない無法者によって、クマタカは、今「風然の灯」である。

箕面山系では、小型タカ類も密猟、密売されている。一店で一年にツミが推定5羽～6羽は売られたと有力情報を得た時、われわれはショックを受けた。これは、いずれも使用禁止されているカスミ網によるものであった。カスミ網は既に、昭和20年代に使用を禁止されているはずなのに事実はどうか、大阪府下でもなかば公然と使用されている。大和川の中洲に、堂々とはられている事例すらある。市民の皆

クマタカは、特殊鳥類、特別に保護を要すると国が認定した重要な鳥。大阪府下でも減少の一途をたどり、現在、推定10番い位、20番いもないだろう。

さまに、これを強く訴えたい。

ツミと共に捕獲、売買されたタカ類にアカアシチョウゲンボウがある。関西地方に飛来していた事を二年後にわれわれは追認した。これが下の写真で早型である。ぼくが実物をみた一週間後に病死した。



アカアシチョウゲンボウ

昨年10月末、紀南地方にも一羽、カスミ網により捕獲され、値段2万5千円～3万5千円で買わないかと持ち込まれた。この事実から秋の渡りをねらってカスミ網に野鳥密猟が毎年行われ、その中に減少をたどるタカ類も含まれている事が判る。

コルリ、オオルリ、コマドリ、キビタキなど姿も声も美しい夏鳥も多数密猟、密売されている。コルリの場合、カスミ網を張れば殆ど一網打尽に捕れるらしい。

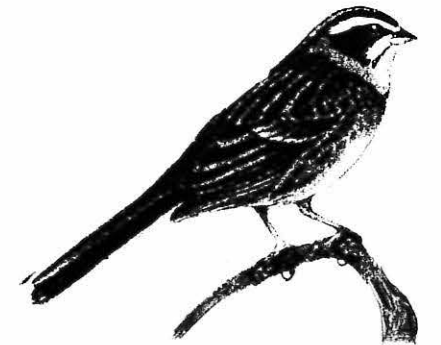


オオルリ

「今なら某店にコルリ数百羽がいる」との情報がわれわれの野鳥の会会員もたらされた時を忘れる事ができない。しばらくの間、一同は息を飲んでア然とした。それ程、彼らのやり方は徹底している。「これでは箕面に鳥がいなくなる。ここまでやるのは行き過

ぎだ」というのが情報提供者の言い分であった。やむを得ず、野鳥の会が行動に踏み切った動機である。

「朝日新聞」に発表した大阪支部の小鳥店調査では「38種、380羽以上」とあるが、これはほんの少数の店を調査した結果のもので実態は3倍以上とみて差しつかえない。ほんの氷山の一角が水面に出たものと取って頂いた方がいい。詳細は新聞を読めば判るが、要するに違法と知りなせ、小鳥店が野鳥を売のをやめないか？という事で結局はお客があり需要があるからという事になる。ウグイスやメジロを飼い、その鳴き声を楽しむ風習は、昔からある。そういう事を市民の皆さんに自粛して欲しいというのがわれわれの願望である。世知辛い世の中になったものである。それを重々承知した上でわれわれは申し上げたい。今は、そういう時代ではなくなった。これ以上、自然破壊が進めば、野鳥は勿論、人間自体存在し生活する事が危くなる。メジロ、ホオジロ、



ホオジロ

ウソ、マヒワの四種に限り、同一世帯に一羽だけ認める鳥獣保護法の趣旨も、こういう高い認法の上に成り立っている。

“メジロ鳴き合せ会”がテレビや新聞で報道される事もある。しかし、メジロ鳴き合せ会に参加する人は、殆どの場合一人でも何羽も飼育している例が多い。不思議な事である。1人が1羽飼う事も禁じられているのに、実態は1人で10羽も20羽も飼っている。いろいろと法の脱け道を考えて、こういう大会が公然と開かれている。こういう事も、出来る限り遠慮して頂きたいものである。

(日本野鳥の会大阪支部幹事)

オーストラリアの野鳥

私は、かねてからのあこがれの地、オーストラリアに、3月26日から1週間訪れる機会に恵まれました。そこで見たいろいろな野鳥についてご紹介しましょう。

3月27日の早朝、メルボルンの空の玄関であるタラマリン空港に到着し、バスによる市内観光の後、メルボルン動物園に行きました。メルボルンには、大小あわせると450以上もの公園があり、メルボルン動物園もその1つのロイヤル・パークの中にあり、そこで、トックリイワツバメ、カササギフエガラス、トラツグミ、インドハッカなどの小鳥のさえずりを聞くことができました。

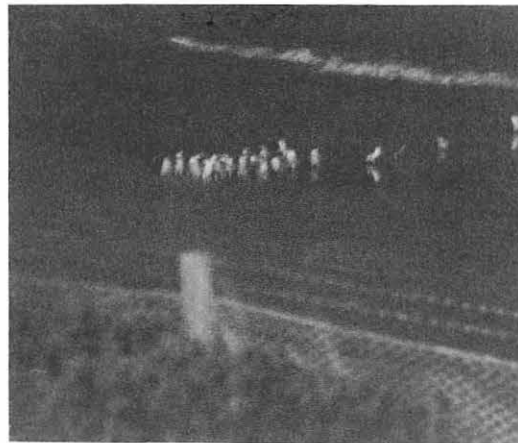


カササギフエガラス

3月28日、午前中の自由行動を利用して、ホテルの近くの公園に野鳥を見に行ったら、昨日あまり見かけなかった、イエズズメやレンジャクバトなどが見られました。午後コアラ保護区を見学した後、期待のフェアリー・ペンギンを見に、フィリップ島に向かいました。途中、メルボルン市内からバスで1時間ほど走って行くと、目の前に大平原が広がり、地平線がはるかかなたに見える、“ああ、オーストラリアに来たんだなあ。”という実感がわいてきました。そこには、モモイロインコが40~50羽の群れをなして餌を食べており、すばらしい光景でした。その他、市内では見ることのできなかつた、コクチョウやコシグロペリカンなどが人を恐れることもなく

近づいてきました。

そして、日が沈み、フィリップ島に闇が降りるころ、漁から戻ってくるフェアリー・ペンギンを見ることができました。体長30cm前後のかわいらしいペ



闇の中、かろうじて見える
フェアリーペンギンの群

ンギンが、手をのばしたらとどきそうな所を、列になってヨチヨチと巣へ向かって歩いていきます。本当に感動的なシーンで、写真を撮るのも忘れたほどです。

3月29日、キャンベラ市内では、インドハッカ、キバラムジロ、ホシムクドリ、セジロカササギフエ



モモイロインコ

ガラス、キバタンなどが、数羽見られました。また、キャンベラ郊外の羊牧場には、キビタイテリハバトやモモイロインコがたくさんいました。

3月30日、タロンガ動物園見学。タロンガという

のはオーストラリア先住民族の言葉で“美しい水のながめ”という意味だそうで、その名のとおり、シドニー湾、ハーバー・ブリッジ、オペラ・ハウス、シドニー市街のながめは本当に美しいものです。私が行った時、コトドリの雄が巣材を運んでおり、直径1m以上もあるかと思われる巣を作っていました。また、ムギワラトキが多数群れをなしていました。



キビタイテリハバト

タロンガ動物園では、オーストラリア産の鳥類を自然に近い環境の中で飼育しています。ディスプレイの時にのどぶくろを大きくするという珍しいニオイガモも見ることができました。動物園の帰りによつたオーストラリア博物館では、オーストラリアの動植物、化石、岩石、鉱石などが展示されており、野鳥のはく製だけでも何百体と展示されていました。また、オーストラリアのいたるところにオオフレマカモメが見られました。

3月31日、空路ゴールド・コーストへ。シー・ワールド、アンダルシア・パークを見学した後、待ちに待ったカラピン野鳥園へと向かいました。ここには、ゴシキセイガイインコ(ロリキート)をはじめとする約1500羽の美しい小鳥が、1日2回、餌付けされ、観光客の手にした皿の中のハチミツにひたしたパンを食べにやってきます。その他、ネッタイバン、ヨーロッパセイケイ、オオバン、シロガシラツクシガモ、マミジロカルガモなど、オーストラリ

ア原産の野鳥が多数、自然のままに飼育されていました。また、園内のいたるところで、オオバンが子供をつれて餌をねだりよってきます。日本ではとても見られない光景です。

4月1日、ブリスベーンのローン・パイン・コアラ保護区を訪れましたが、園内には野鳥らしきものは見あたらず、数羽のゴシキセイガイインコが飛んでいただけでした。園内では、数種のインコ類と珍しいものでは、ゴウシュウガマグチヨタカが飼育されていました。当園で人気のあるワライカワセミもオーストラリアの動物園ではごくあたりまえの鳥だけにあまり関心がなさそうでした。



ゴウシュウガマグチヨタカ

最後に、今回の旅行で感じたことは、オーストラリアは市街地でも野鳥が多く、その野鳥たちは人を恐れる様子もなく近づいてきます。それは、オーストラリアの人々が、自然や動植物を愛してそれらを保護しているからでしょう。

今回の旅行は、私自身の新婚旅行ということと、強行スケジュールが重なったために、コアラ中心になり、好きな野鳥もあまり見るができなかつたので、いつの日か、また、オーストラリアに行き、思う存分、好きな野鳥(インコ類)の生態を観察してみたいと思っています。

(飼育課：大川光雄)

キーパーズ・アイ ③1

◎ 絆 (きずな)



中華人民共和国の上海市と大阪市との友好都市提携10周年記念事業の一環として、昨年の10月に上海動物園から贈られたコウノトリ2羽 (オス・メス) と、フランソワルトン2頭 (オス・メス) の返礼に、

当園生まれのラマ2頭 (オス・メス) と、ダチョウ2羽 (オス・メス) を贈る事になりました。この名誉ある動物親善大使に選ばれたラマは、昨年の11月27日に生まれたオスのロックと、同じく昨年の5月21日に生まれたメスのセルマです。2頭共、まだ母親に甘えたい盛りの時期ですが、中国に贈るに先立って検疫のため2頭をそれぞれの母親から分ける日になり、ラマの母子の絆の深さを改めて思い知らされる事になったのです。検疫室に移した後、2頭共母親を呼ぶため悲しそうな声を出し、不安そうに室内を歩き回るので。特にオスのロックは、グエーグエーと哀れな声を出して母親を呼び続け、呼び疲れると床に座り込むのです。検疫観察中にこのなきごえを聞くと、私は生木を引き裂かれるような罪悪感に、心が痛む思いがしました。この2頭のラマが新天地の上海動物園で、人々の温かい愛情に包まれて元気に育ってくれる事が、日中友好の絆をさらに深める一役になれば幸いです。

(飼育課：農本 武志)
(イラスト：山下 奉之)

◎ 咬まれて一人前!

昨年の6月に南園のクマ舎担当から北園の小獣舎の担当に替って、まもなく1年になりますが、今までのクマ舎担当では体験できなかった多くのことに接する機会がもてました。クマ舎では直接動物に接する事がありませんでしたが、小獣舎では人によく馴れている動物が多いため、運動場の中に入って動物と接する機会も多いのです。初めのうちは動物と直接接せられるのでルンルン気分だったのですが、つい油断して動物に咬まれるというアクシデントもあり、自信を失いかけていましたが、先輩の人達から「飼育係は動物に咬まれて一人前になっていくんや、動物と接しなかったらケガなんかせえへん」と、激励されて少し気をとりもどしました。入園者の人が見ている前で、人工哺育で育てたトラの仔にじゃれて足をガブリと咬まれても、平静な態度を続ける事ができるようになりました。(でも、ほんまに痛いなあ……。これからは動物に咬まれたり、ひっつかれたりするかも知れませんが、一人前の飼育係を目指

すため、僕は頑張っていくつもりです。

(飼育課：松下達夫)

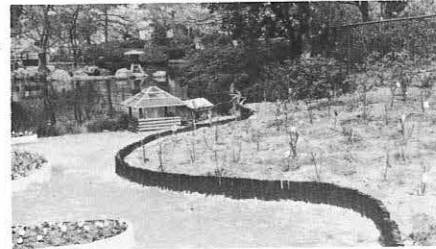


(イラスト：山下奉之)

動物園ニュース

§ 南園にバラ園完成

日本庭園の池の東側にバラ園が完成しました。ハイブリッドテイ系の赤色と黄色のバラ 100本が植えられています。又、池のしゅんせつ工事も終わり、水も美しくなりました。花と緑と水鳥の素晴らしいオアシスになりました。



§ キングペンギン抱卵中

昨年フ化を成功させたペアとは別のペアが、3月4日に産卵し抱卵に入っています。3月26日には抱卵を交代し、現在では、オスが抱卵を続けています。このペアは昨年産卵、抱卵したのですが、残念ながら途中で破卵させてしまいました。今年は、上手に抱えているので期待ができそうです。4月末頃、ふ化の予定になっていますので、2年続いてキングペンギンふ化のニュースをお知らせできそうです。

§ キジ舎完成

3月28日、新キジ舎が公開されました。このキジ舎建設にあたってはプロジェクトチームが組織されいろいろな意見をだし、原案を作って建設したものに従来のものよりずいぶん改良されています。前面はステンレスの細い金網を使用していますので見やすく、飼育係の通る通路も広くとってあるため作業もしやすくなっています。又、防鼠対策も万全で、鳥の生態もじゅうぶん考慮して設計してあります。キジ類の自然ふ化も希望がもてそうです。キジ舎の前には美しい花壇や、桜の木なども植えられ、中にあるキジも一層はえています。

建設にあたってはプロジェクトチームが組織されいろいろな意見をだし、原案を作って建設したものに従来のものよりずいぶん改良されています。前面はステンレスの細い金網を使用していますので見やすく、飼育係の通る通路も広くとってあるため作業もしやすくなっています。又、防鼠対策も万全で、鳥の生態もじゅうぶん考慮して設計してあります。キジ類の自然ふ化も希望がもてそうです。キジ舎の前には美しい花壇や、桜の木なども植えられ、中にあるキジも一層はえています。

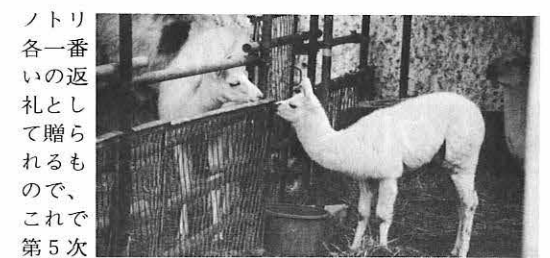
§ 中国・上海へ動物親善使節

大阪市と上海市の友好を深めるため、4月15日にラマとダチョウの各一番が上海市へ贈られました。これは昨年、上海市から贈られたクロオオカミ、コウ

現在の飼育動物数

(1984年3月31日現在)

哺乳類	9目	97種	361点
鳥類	20目	197種	647点
爬虫類	3目	36種	111点
計	32目	330種	1,119点



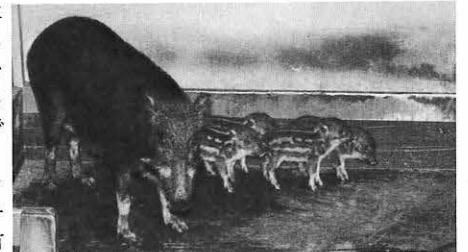
ノトリ各一番の返礼として贈られるもので、これで第5次の動物交換になります。なおラマ一番いは4月3日から輸出前の検疫に入りました。

§ 世界の動物園ポスター展

世界の10ヶ国20園の自慢のユニークなポスターが展示館で公開されました。写真やイラストなど素晴らしいものばかりです。それぞれの特色があって、人気を集めました。

§ リュウキュウイノシシ誕生!!

4月10日、リュウキュウイノシシの赤ちゃんが、5頭生まれました。両親は、昨年2月に沖縄と大阪の学校新聞の交流事業の一環として西表島から来園したものです。まだ巣箱の中にいることが多く時々母親につれられ顔を見せるのですが、イノシシの子供特有のたてじまのあるとてもかわいいすがたをしています。



§ バーバリーシープ6頭誕生

4月5日にオス1頭、メス1頭、7日にオス3頭、8日にオス1頭と計6頭ものバーバリーシープの赤ちゃんが誕生しました。殺風景だったバーバリーシープの放飼場も、これらの赤ちゃんが跳んだりねたりするほほえしい光景でまばゆい初夏のように明るくにぎわっています。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。7月までの休園日は下記の通りです。
5月21日(月)、6月18日(月)、7月16日(月)、
開園時間は午前9時30分～午後5時で、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

オールカラー

むし

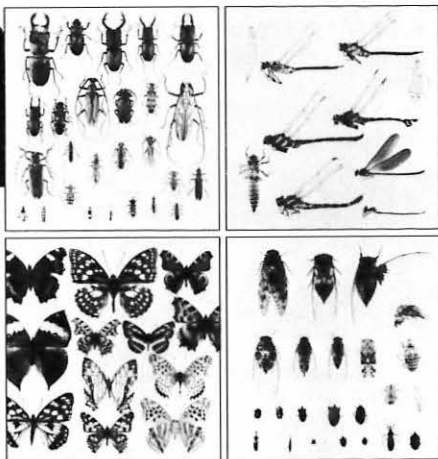
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

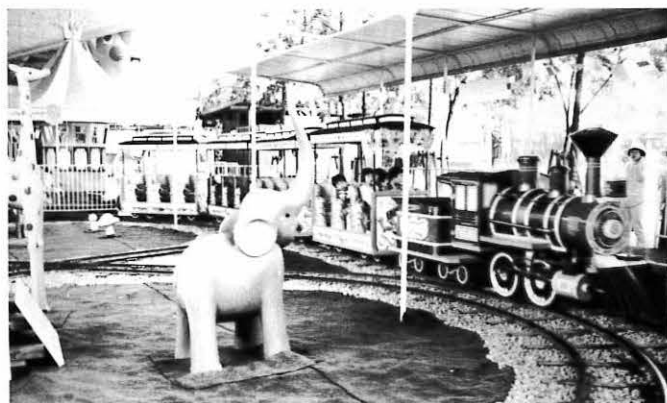


B5変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりもの、があります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091

三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式
会社

アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著
(天金美装・箱入
B 6判・270頁
2500円・千不要
(直接申込をう))

著者が、約40年の間に、共に暮らした70余頭の犬の生と死を歌った419首を取録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を取め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A 5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・千300円

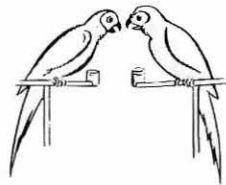
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

序 狼への幻想と現実	5 狼の伝説
1 犬科の分類と解説	6 日本狼の特徴
2 犬と狼の関係	7 日本狼の絶滅
3 日本狼の歴史	終 狼を飼った人々
4 狼狩の記録	

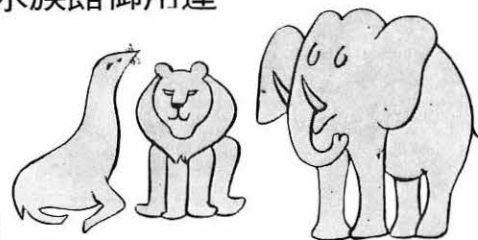
発売 株池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

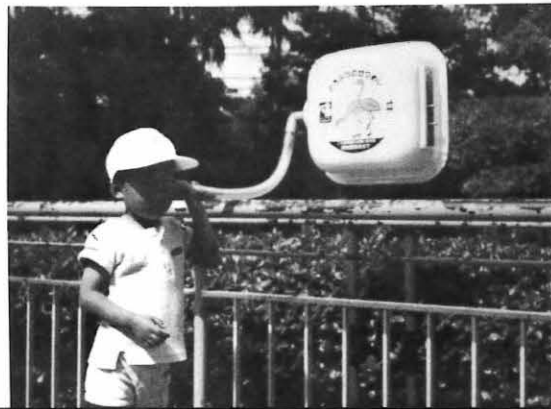
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

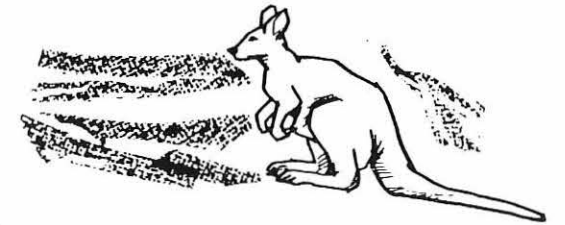
たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

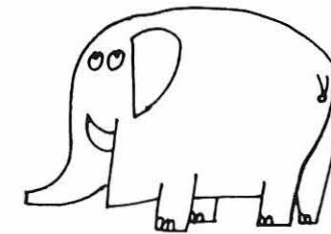
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

……………ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……………
いらっしゃいませ……
ごきゅうけいは……………
おしょくじは……………



動物園内北園
中央売店
☎(06) 771-0973

天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子
大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話(06) 771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますので説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円
撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和59年5月15日発行(毎月1回15日発行)

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

第20巻 第5号 (通巻225号)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

土井 良彦	伊東 重朗	小出 雅三	樽本 勲	中川 哲男	前田 豊彦
宮下 実	長瀬健二郎	榊原 安昭	森本 委利	大野 尊信	葭谷 文彦
農本 武志	野口 秀高	仲谷 登	柴田 総	兼坂 雅浩	堀 弘
大川 光雄					